

名作再読、拾い読み (28)

『花咲くユダの木』 ("Flowering Judas")

小澤 文彦

キャサリン・アン・ポーター (Katherine Anne Porter, 1890-1980) は、アメリカの女性作家で、テキサス州の辺境の町インディアン・クリークで生まれました。本名はキャリー・ラッセル・ポーター (Callie Russell Porter) です。2才の時に母親が亡くなり、父方の祖母に育てられました。祖母の死後は親戚の家などを頼って転々としたために転校が多く、学校教育を満足に受けていません。16才で結婚しますが夫の家庭暴力で離婚。その後、映画のエキストラや女優などの仕事をしていた時に、肺結核に罹りサナトリウムに入所。そこで2年間の療養中に、作家になる決心をしました。退院後、デンヴァーで記者として働きますが、全米を襲った流感に罹り死の恐怖を味わいます。一時は抜けてしまった頭髮が生え戻った時には白髪となり、その後の半生を白髪のままで通しました。ニューヨークで文筆生活をしている時に、1910年から革命運動が続いているメキシコへ行き、活動家達と知り合いになります。間もなく革命運動とその指導者達に幻滅。その後は短編小説や随筆を書き続け、1922年に最初の短編小説『マリア・コンセプション』を発表しました。1930年に短編小説集『花咲くユダの木』を出版。作品には他に、『蒼ざめた馬、蒼ざめた騎手』(1939)、『斜塔』(1944)などがあります。唯一の長編小説『愚者の船』(1962)は、スタンリー・クレイマー製作・監督、ヴィヴィアン・リー主演により『愚か者の船』として映画化されました。

彼女は50歳代から60歳代の半ばにかけて、スタンフォード大学、ミシガン大学、テキサス大学などで教壇に立ち、ユニークな教え方で人気を博しました。87歳の時に、“The Never-Ending Wrong” (1977) を出版します。それは彼女が50年前にアインシュタインやドス・パソスなど多くの知識人と共に抗議したアメリカ史上において悪名の高い「サッコ＝ヴァンゼッティ事件」についての本ですが、この年にマサチューセッツ州知事は、処刑された二人が無実だったことを公表しています。彼女はメリーランド州シルヴァー・スプリングで亡くなります。90歳でした。

今回は、『花咲くユダの木』を紹介します。メキシコの革命思想に共鳴したアメリカ人女性のローラは、メキシコにやって来て子供達に英語

を教えながら、隠れ家に潜んでいる活動家達や刑務所に捕らえられた仲間達との連絡を受け持っています。刑務所の仲間達は指導者のブラジョニが自分達を助け出してくれることを期待していますが、ブラジョニは革命に対する情熱を既に失っていて、ブランドの服を着て高級な香水を振りかけ、ローラの部屋の窓下に毎晩やって来てはギターをかき鳴らして愛の歌を捧げるという有様です。ローラは、革命の指導者は瘦せていないといけないという信念を持っていて、ブラジョニの肥満した姿を疎ましく思っています。ローラはその日に刑務所で見たことを彼に話しました。刑務所を訪問した時、ユージェニオは待つことに耐えられなくなって睡眠薬自殺を図っていました。朦朧とした意識の中から、医者と呼ばないでくれと懇願するので、彼女もそのまま刑務所を出てきたのです。ブラジョニにそのことを知らせると、彼は不愉快そうに「あいつは馬鹿だよ。俺たちは厄介払いをしたようなもんだ」と答えただけでした。

ローラはその晩、夢の中でユージェニオが自分にユダの木から血の滴る花をもぎ取って食べさせ、「人殺し！人食い女！これは俺の身体と俺の血だぞ」と叫ぶのを聞いて、自分もブラジョニと同じ裏切り者だという罪の意識に恐れおののくのでした。

ユダの木はキリストを裏切ったイスカリオテのユダが首を括って死んだ木とされていますが、日本ではセイヨウハナズオウと呼ばれ濃いピンクの美しい花を咲かせる木です。花言葉は＜裏切り、不信＞で、本のタイトルからこの小説の主題が連想されます。

理想と現実の狭間で揺れ動き、矛盾に気付きながらも周囲に同化できず、自責の念に駆られる禁欲的な姿が繊細に描かれた小説です。

参考文献

1. Katherine Anne Porter “Flowering Judas and other stories” (Hon-no-tomosha, 1992)
2. キャサリン・アン・ポーター著 野崎孝訳 『花咲くユダの木』(『アメリカ短編24』より) (集英社、1970)

おざわ ふみひこ (情報サービス課)